



平成26年3月期決算説明会資料

平成26年6月 9日（大阪）

平成26年6月10日（東京）

石原ケミカル株式会社

（東証二部 4462）

目 次

1. 平成26年3月期 決算の概要

(代表取締役社長 時澤 元一)

2. 平成27年3月期（通期）の業績予想

3. 二次中期経営計画及び当面の対処すべき課題

4. 株主還元・内部留保の考え方

5. 技術情報

《参考資料》

- 経営の基本方針
- 技術動向
- 平成26年3月期 BS PL
- 平成26年3月期 キャッシュフロー表
- 展示会出展のご報告

本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確
定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想値と大きく異なる可能性があります。

平成26年3月期 決算の概要

(単位：億円、%)

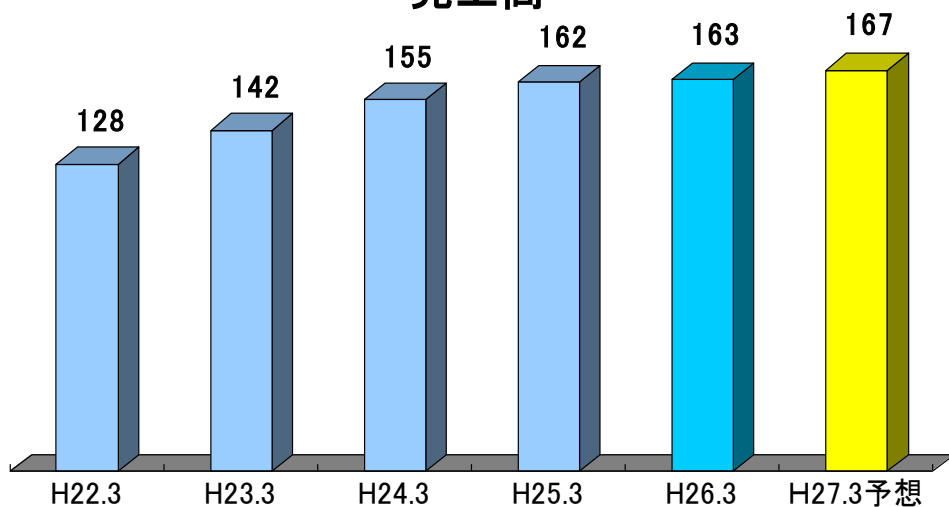
	平成25年3月期	平成26年3月期				
	年間 (a)	上期	下期	年間 (b)	差異 (b)-(a)	増減率
売上高	162.8	83.7	79.9	163.7	0.9	0.5%
売上総利益	38.7	21.3	20.2	41.6	2.9	7.5%
営業利益	7.6	4.4	3.7	8.2	0.6	8.3%
経常利益	8.2	4.9	4.9	9.9	1.7	21.0%
当期純利益	3.7	3.3	3.3	6.6	2.9	80.3%
1株当たり当期純利益(円)	49.72			89.64		

- 1.売上高：自動車用化学製品等、工業薬品セグメントを中心に0.5%の増収 2期連続 最高売上
- 2.営業利益：自動車用化学製品等の製品販売増により、利益率が改善され、8.3%の増益
- 3.経常利益：営業外収益192百万円（神戸市助成金収入30百万円等）により21%の増益
- 4.設備投資：631百万円 減価償却費356百万円 研究開発費950百万円

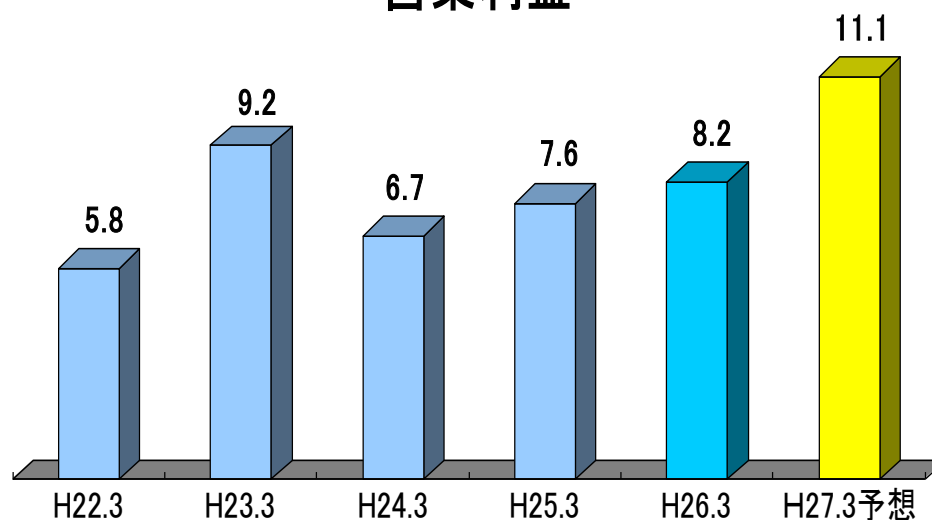
推移財務値

(単位: 億円)

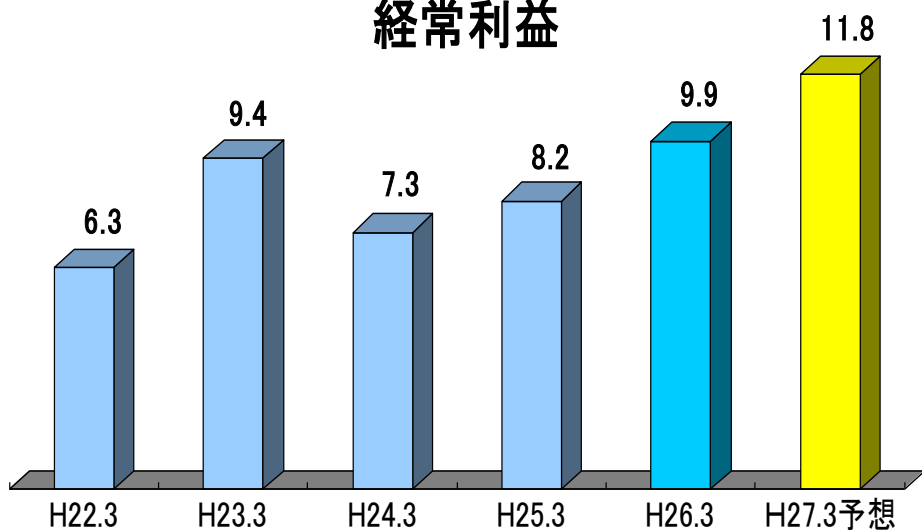
売上高



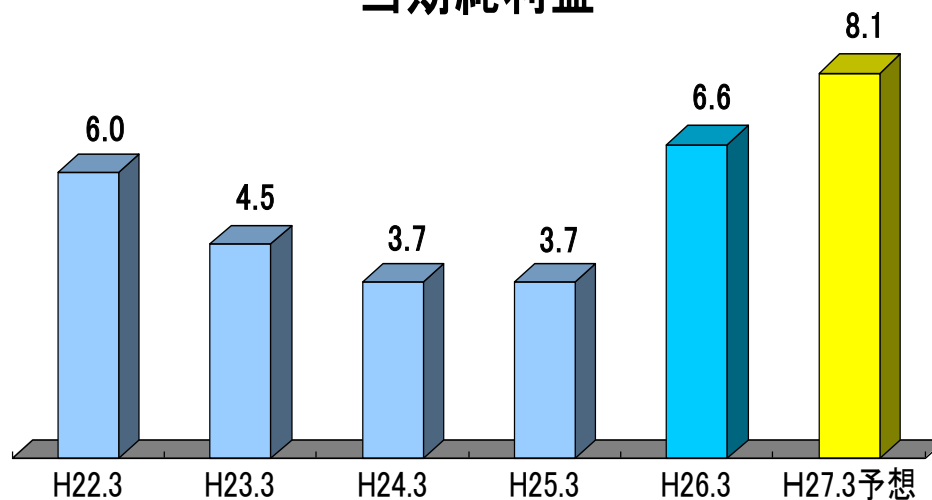
営業利益



経常利益



当期純利益



セグメント別の営業の状況

金属表面処理剤及び機器等 売上高 93.5億円（前期 99.0億円 5.5%減）売上構成比57.2%

- 電子部品用外装めっき液
対応する電子部品業界は、デジタル家電やパソコン需要が低迷している中、海外市場において、スマートフォン、タブレット関連の需要は引き続き堅調に推移。
スマートフォン、タブレットに搭載される先端電子部品用ウエハーバンプめっき液は、韓国、台湾のユーザーを中心に伸びたものの、国内市場での低迷、海外市場での一部大口ユーザーのコストダウン目的の、使用量削減により前年を下回る。
- 化成処理液自動管理装置及び試薬
スマートフォン、タブレットの市場拡大に対応したプリント基板、タッチパネル関連のユーザーの海外工場を中心に管理装置、試薬の拡販に努めたが、前年同期を下回る。

電子材料 売上高 7.7億円（前期7.9億円 3.4%減）売上構成比4.7%

- ニッケル超微粉
ユーザーのセラミックコンデンサの生産状況もあり前年並み。
- 機能材料加工品
期後半より半導体製造装置関連の需要が回復し、前年を上回る。

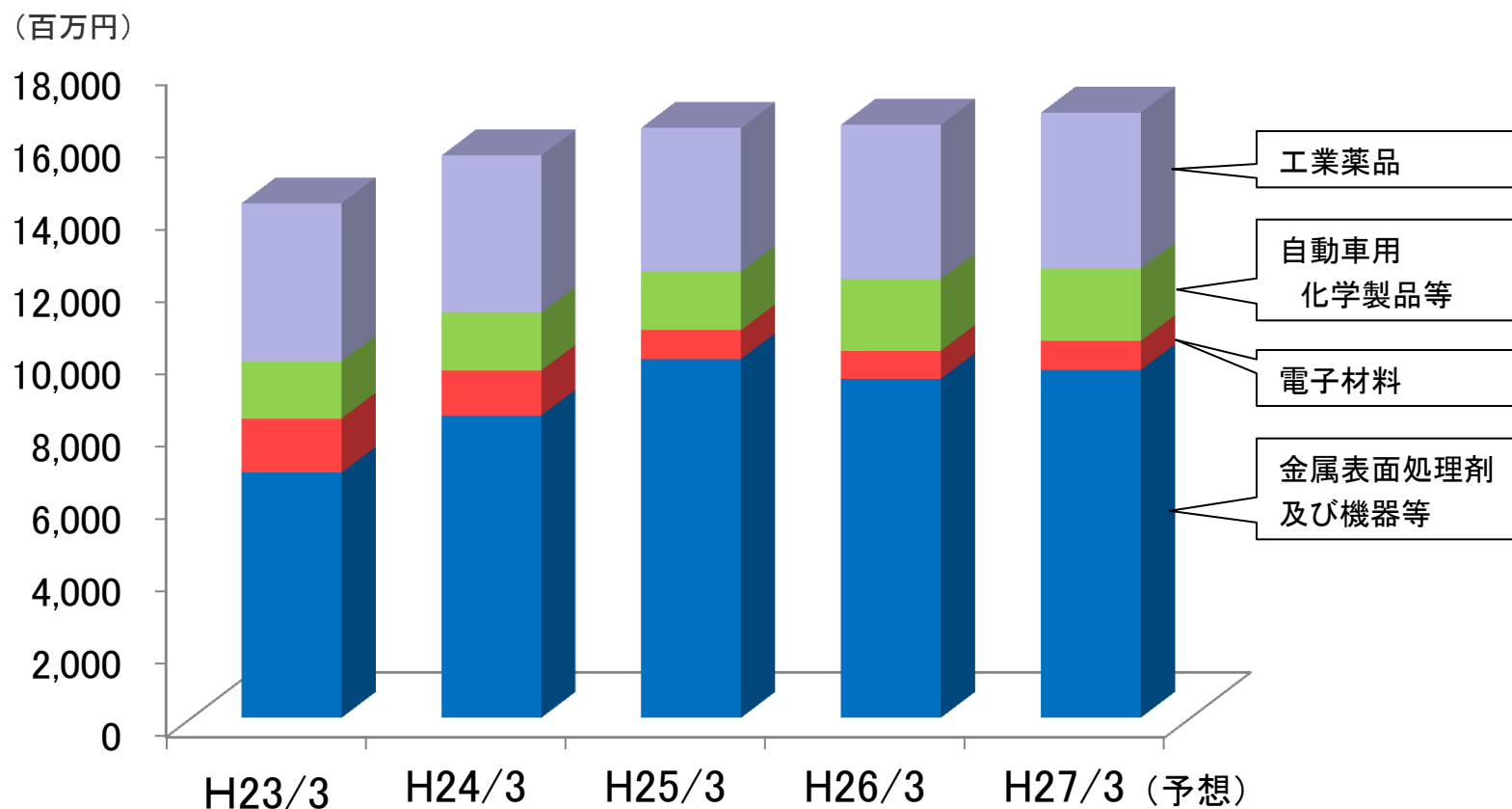
自動車用化学製品等 売上高 19.7億円（前期 16.1億円 22.2%増）売上構成比 12.1%

エアコンフィルター交換作業に合わせエアコン洗浄を同時に施工するビジネスを継続して提案し、新製品を投入したこともあり、エアコン洗浄剤が順調に推移。
補修用コンパウンド製品を改良し、説明会、同行販売を実施したことによりコンパウンドも順調に推移。

工業薬品 売上高 42.5億円（前期 39.6億円 7.4%増）売上構成比 26.0%

円安効果による中国、アジア諸国への鋼材輸出に回復がみられ、高級鋼板向け特殊薬剤の使用量が増加。

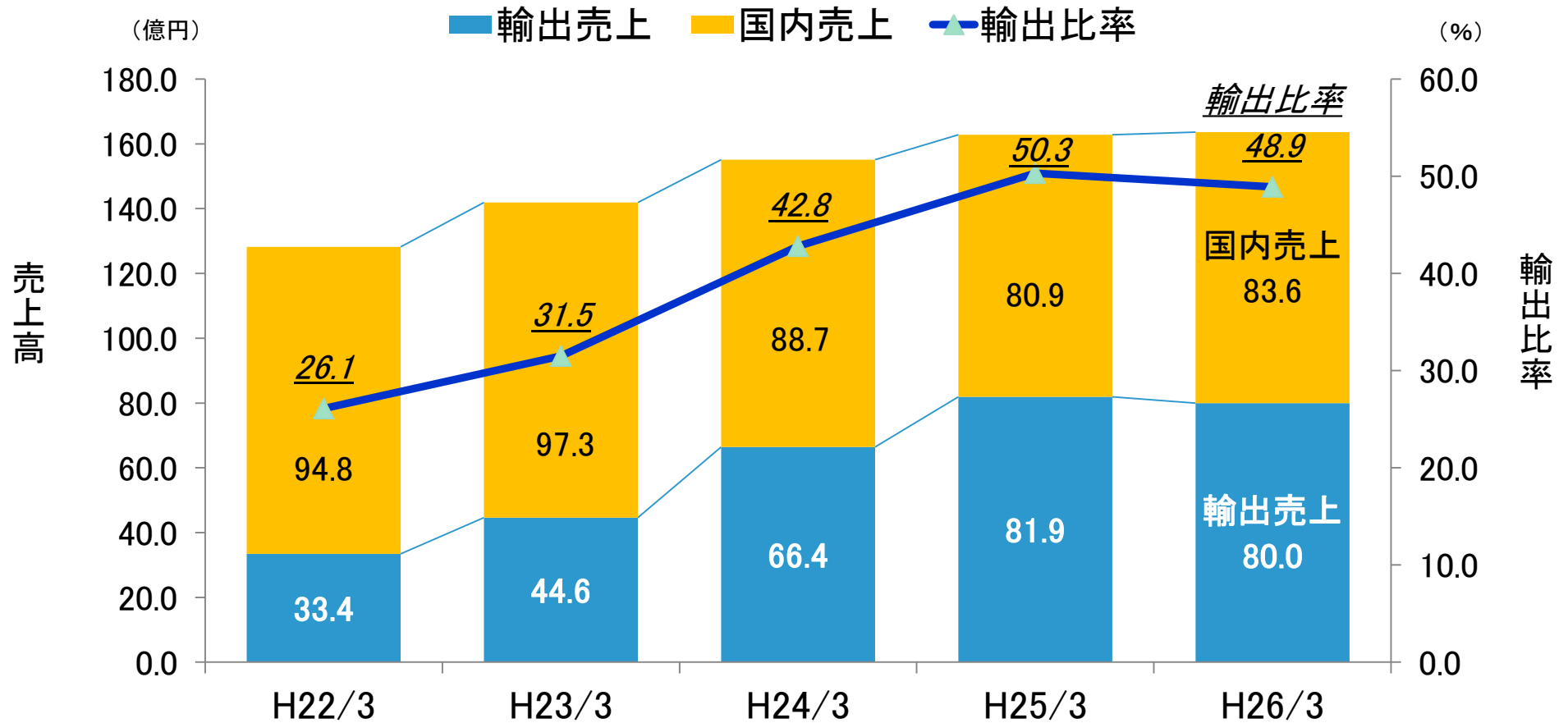
セグメント別売上高の推移



金属表面処理剤及び機器等	6,769	8,343	9,905	9,359	9,600
電子材料	1,493	1,244	799	772	800
自動車用化学製品等	1,579	1,601	1,619	1,979	2,000
工業薬品	4,366	4,333	3,963	4,258	4,300

地域別販売の状況

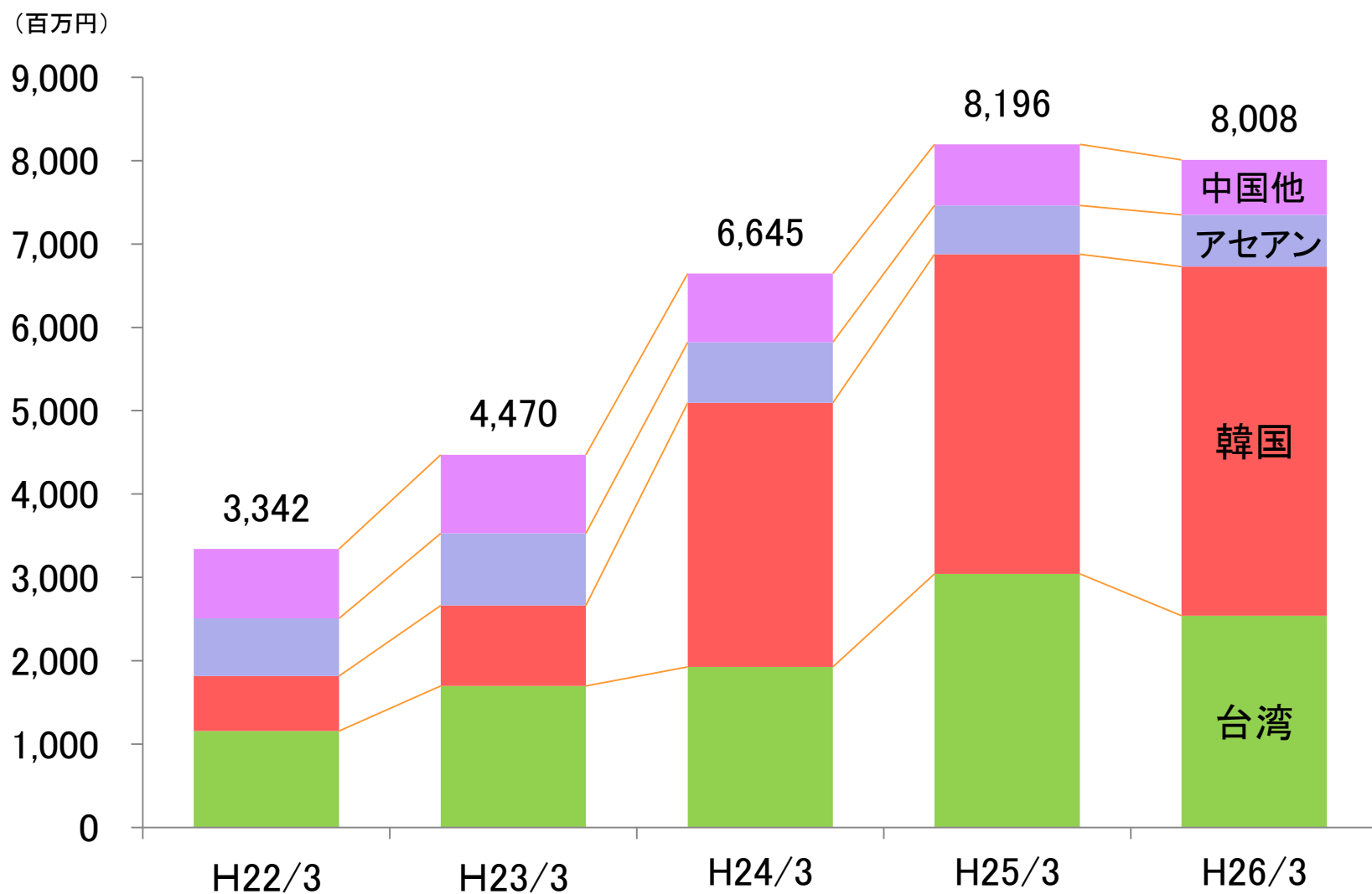
輸出比率推移



	H25/3	H26/3
1USD(計画)	77.0	82.0
1USD(実績)	82.51	100.44

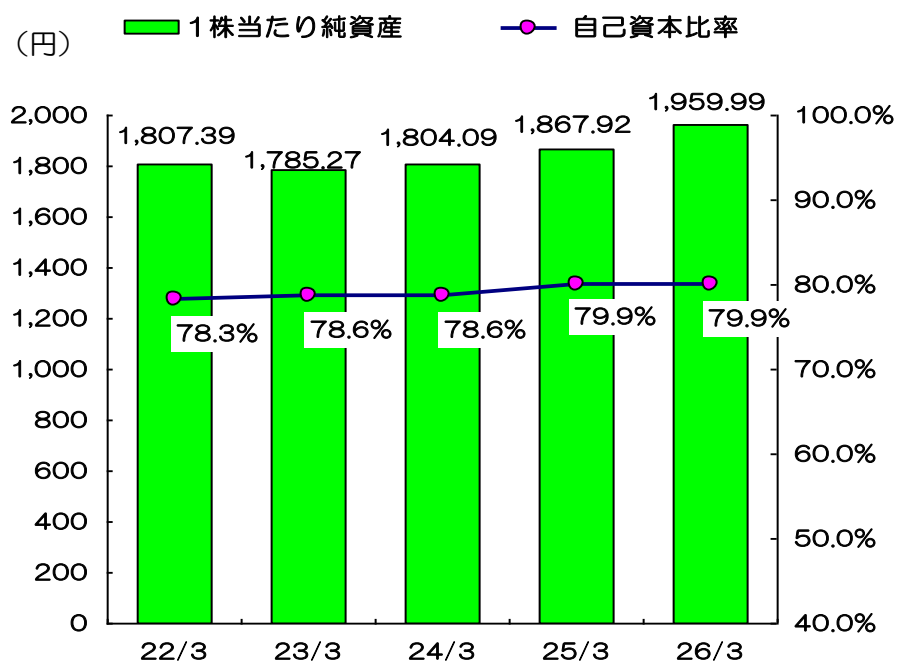
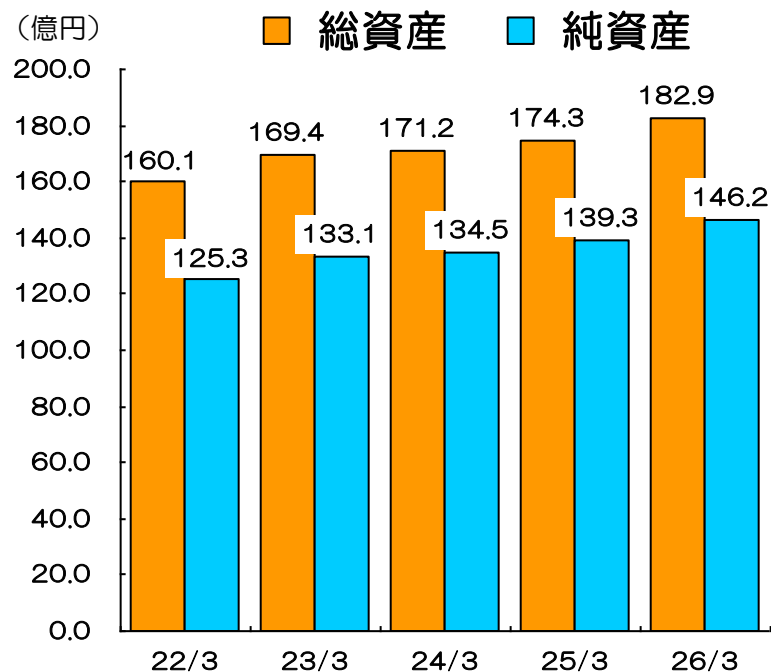
地域別販売の状況

輸出売上高推移(エリア別)



総資産・純資産・1株当たり純資産・自己資本比率の推移

		22/3	23/3	24/3	25/3	26/3
総資産	【Total Assets】 (億円)	160.1	169.4	171.2	174.3	182.9
純資産	【Shareholders Equity】 (億円)	125.3	133.1	134.5	139.3	146.2
1株当たり純資産	【BPS】 (円)	1,807.39	1,785.27	1,804.09	1,867.92	1,959.99
自己資本比率	【Equity Ratio】 (%)	78.3%	78.6%	78.6%	79.9%	79.9%



平成27年3月期の業績予想

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位：億円，%)

	平成26年3月期 (実績)			平成27年3月期			
	上期	下期	年間	上期	下期	年間 (予想)	増減率
売上高	83.7	79.9	163.7	82.8	84.1	167.0	2.0%
営業利益	4.4	3.7	8.2	5.6	5.4	11.1	34.9%
経常利益	4.9	4.9	9.9	6.0	5.8	11.8	18.7%
当期純利益	3.3	3.3	6.6	4.1	4.0	8.1	21.1%
1株当たり当期純利益(円)			89.64			108.58	

(平成26年5月14日発表)

平成27年3月期の業績予想のポイント

◇ 売上高・売上総利益

- ・海外ファンダリー企業を中心にスマートフォン、タブレット向けのウエハーバンプめっき液の需要が、引き続き堅調に推移すると予想する。当社としては、高付加価値薬品の採用を促進し、製品売上を拡大して利益率の向上を確保
- ・エアコンフィルター交換作業に合わせた洗浄を同時に施工するビジネスを継続して、カーディーラーの確保・定着化をはかる。また、自動車用補修材のコンパウンドの新製品を投入し、シェアを上げてまいります。
- ・計画為替レート 1USD=100.00円

◇ 経費・人件費

- ・設備投資、研究開発、販路拡大等、市場開拓費用の増大が見込まれるが、各部門、各費目において効果的な使用の徹底と節減に努める。

◇ 減価償却費：449百万円計画

◇ 研究開発費：1,030百万円計画

- ・新製品開発、新技術開発の促進（ナノ粒子関連等 新規電子材料の開発）

◇ 設備投資：811百万円計画

- ・機械装置等の生産設備及び研究開発関連設備の増強。

中長期経営方針について

中期的な取り組み方針

世界に通用する製品、技術、サービスを創造しグローバル化に対応できる企業を目指し、更なる成長を遂げ次のステージに前進するために以下の取り組みを推進してまいります。

- (1) 新製品開発、新技術開発のため研究開発投資を積極的に行い、新製品、新市場を開発し業容の拡大をはかる。
- (2) 基礎となる3つの分野

電子関連分野・自動車用品分野・工業薬品分野

4つの事業

- 金属表面処理剤及び機器等
- 電子材料
- 自動車用化学製品等
- 工業薬品

バランスよく展開し、各々の事業の収益力を高め、その総体として会社の業績の伸長をはかる。

- (3) 自社製品比率を高め、売上総利益の拡大をはかり収益力の高い会社を目指す。
- (4) 電子材料関連分野を重点開発分野と位置づけ、第5の事業を育成する。

当面の対処すべき課題

4つの事業をバランスよく展開し、安定的な業績の向上を目指します。

- 第5の事業の柱として、金属ナノ粒子等新規電子材料の事業化を加速する。併せて既存事業の安定的な生産体制の維持のため、生産場所の分散及び生産能力の増強をはかる。
- グローバル化による事業の海外展開に対応し、海外現地法人等の海外拠点の拡充と対応要員の語学力向上に向けた語学留学制度を実施し人材育成を推進する。
- 地震等の自然災害を含めた様々な事業のリスクに対して、リスクマネジメントの推進、事業継続計画(BCP)の見直し、継続的な改善を進め更なる危機管理体制の強化をはかる。

目標とする経営指標

- 売上高経常利益率10%以上を目標とする。
- ROE（自己資本利益率）・EPS（1株当たり当期純利益）の向上をはかる。

	23/3	24/3	25/3	26/3	27/3 (予想)
売上高経常利益率 (%)	6.7	4.7	5.0	6.1	7.1
ROE (%)	3.5	2.8	2.7	4.7	5.5
EPS (円/株)	65.67	50.09	49.72	89.64	108.58

当社を取り巻く外部環境は日々刻々と変化し、現在のような金融環境の激変期にあっては、ROEの向上とともに企業の持続性も重要な経営課題として認識しております。

このような状況のもとでは、強固な財務状況を維持し、株主、取引先等、全てのステークホルダーに安心していただける基盤の整備も重要であると考えております。

株主還元・内部留保の考え方

平成26年3月期の配当予定

安定配当を基本としつつも、業績、経営環境、財務状況を勘案し、中間配当15円、期末配当15円の年間配当金30円を予定。

※第76回定時株主総会に付議する予定

株主還元の基本方針

業績に裏付けられた安定的で継続的な配当を行うことを基本としつつ、業績に応じた増配を検討するなど弾力的な還元策をはかっていく方針であります。配当に加えて自己株式取得も機動的に組み合わせて行うことにより、実質的な株主還元の一層の強化をはかります。

内部留保

健全な経営基盤を維持するため内部留保の充実をはかるとともに、内部留保資金の活用については、研究開発や新事業、新技術開発など将来の企業価値を高めるための投資に優先して充当してまいります。

平成27年3月期の配当予想

中間配当15円、期末配当15円の年間配当30円を予想。

- ▶ この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。
- ▶ 当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。
- ▶ なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願い致します。

ありがとうございました

平成26年6月

石原ケミカル株式会社

(東証二部 4462)

URL: <http://www.unicon.co.jp>

《参考資料》

- 経営の基本方針
- 技術動向
- 平成26年3月期 BS PL
- 平成26年3月期 キャッシュフロー表
- 展示会出展のご報告

経営の基本方針

- (1) 当社は自己開発・商品開発・市場開発の「三つの開発」を企業理念とし、ニッチ市場といわれる事業分野で高い市場占有率を維持し、基幹となる3つの分野で事業をバランスよく展開し、各々の収益力を高め、総体として会社の業績の伸長をはかる。
- (2) このような事業活動を通じて常に新しいニーズの創造・発掘に取り組み、会社の発展を通じて、株主・取引先・従業員など関係各位の信頼と期待に応え、社会に貢献していく。

企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に努める。

全てのステークホルダーの満足度向上

《技術動向》 (代表取締役社長 時澤 元一)

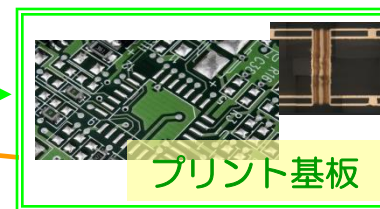
金属表面処理剤 (めっき液) の用途：

電子部品や半導体を電気回路に接続 (搭載) する目的に使用

電子製品

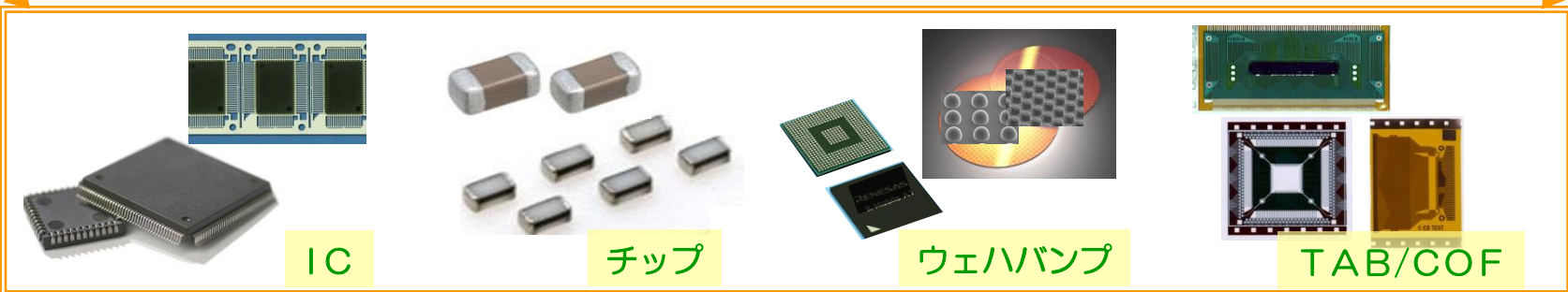
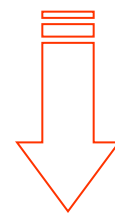


基板



銅めっき液

電子部品



めっき液

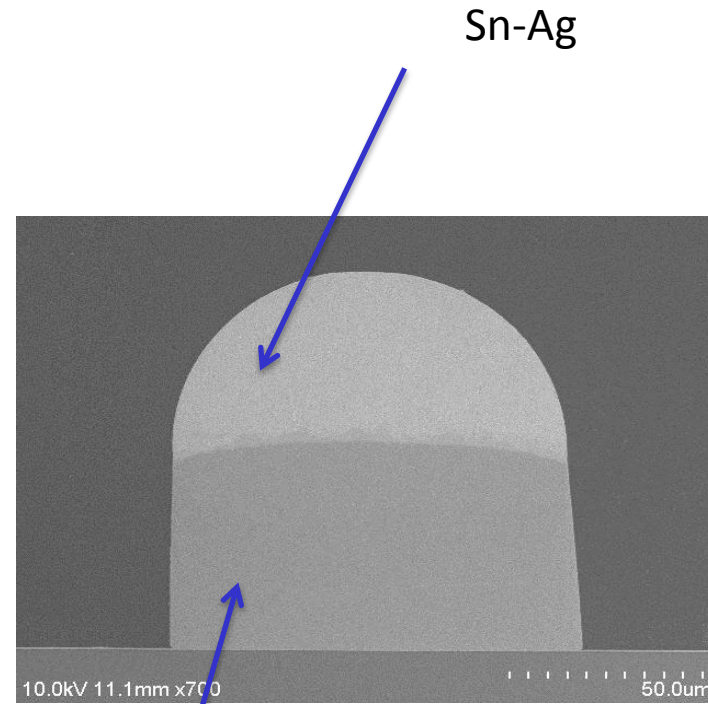
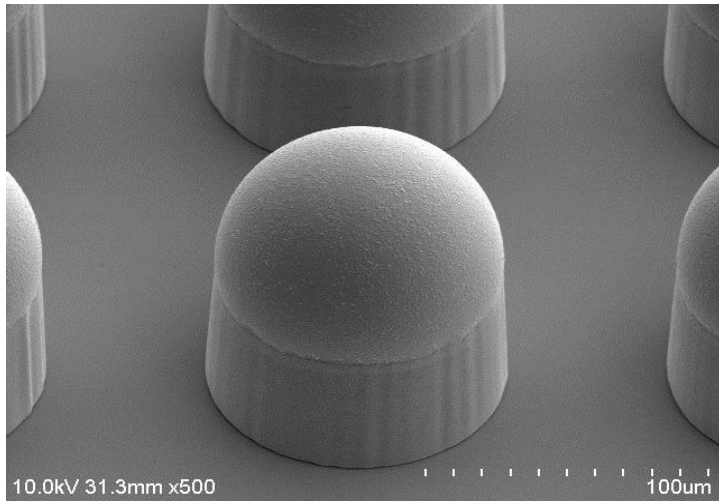
鉛フリーめっき液

中性スズめっき液

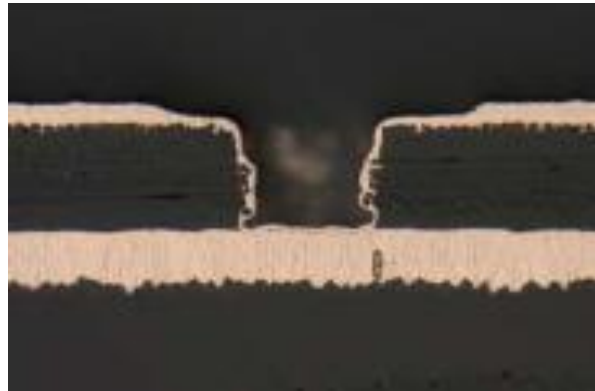
バンプ用めっき液

無電解スズめっき液

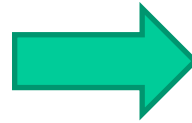
銅ピラー



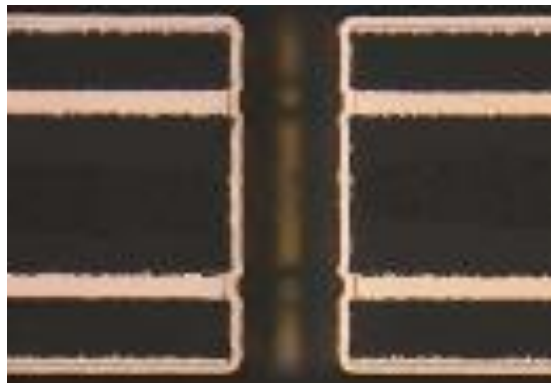
プリント基板



基板Via部分フィリング前



基板Via部分フィリング後



基板スルホール部分

《新技術・新製品開発の状況》

次世代電子回路基板への適用が期待される

導電性銅ナノインクを開発

銅ナノインクに注目して研究開発した理由は・・・

- ◎ 銅は導電性がよく配線材料に適している
- ◎ 銅はマイグレーションしにくい
(電界の影響で金属成分が非金属媒体の上や中を横切って移動する現象)
- ◎ 銅は資源的に豊富である など

さらに

インクジェット印刷法による
回路形成を実用化すれば

プロセスの簡略化による
コストダウン

少量多品種への対応

環境にやさしい
(廃液・廃棄物が少ない)

石原薬品では銅ナノ粉からインク化まで
自社で一貫して開発を進めています

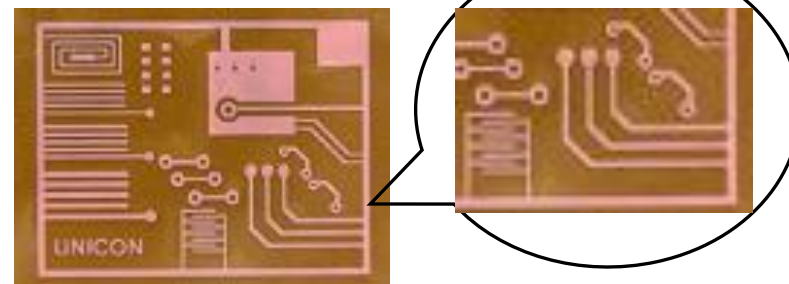
銅原料



銅ナノ粉



銅ナノインク



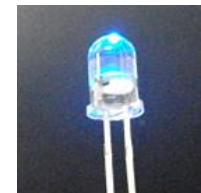
▲ポリイミド基板に
導電性銅ナノインクを用いて形成した回路

様々なアプリケーションにおいて
配線や電極として利用が期待されています

想定されるアプリケーション



ディスプレイ



LED



太陽電池



FPC



RFID

決算書類

貸借対照表

(単位：百万円)

	平成25年3月期	平成26年3月期	増減金額
(資産の部)			
流動資産	6,678	7,598	920
現預金	2,448	3,023	575
売上債権	3,211	3,261	50
有価証券	57	302	245
棚卸資産	808	767	△ 41
その他	153	243	90
固定資産	10,751	10,694	△ 57
有形固定資産	3,576	3,845	269
無形固定資産	44	46	2
投資その他の資産	7,130	6,802	△ 328
資産合計	17,430	18,292	862
(負債の部)			
流動負債	3,048	3,192	144
仕入債務	2,286	2,355	69
1年内返済予定 長期借入金	24	8	△ 16
その他	738	828	90
固定負債	447	478	31
長期借入金	8	-	△ 8
その他	439	478	39
負債合計	3,495	3,670	175
(純資産の部)			
純資産合計	13,934	14,621	687
負債・純資産合計	17,430	18,292	862

損益計算書

(単位：百万円)

	平成25年3月期		平成26年3月期		増減金額
	金額	構成比	金額	構成比	
売上高	16,288	100%	16,370	100%	82
売上原価	12,416	76.2%	12,207	76.2%	△ 209
売上総利益	3,872	23.8%	4,163	23.8%	291
販売費及び 一般管理費	3,112	19.1%	3,340	19.1%	228
営業利益	760	4.7%	822	4.7%	62
営業外収益	104	0.6%	192	0.6%	88
営業外費用	43	0.3%	21	0.3%	△ 22
経常利益	821	5.0%	993	5.0%	172
特別利益	-	-	0	-	△ 0
特別損失	249	1.5%	29	1.5%	△ 220
税引前 当期純利益	571	3.5%	964	3.5%	393
法人税等	200	1.2%	295	1.2%	95
当期純利益	370	2.3%	668	2.3%	298

キャッシュ・フロー計算書の概要

現金及び現金同等物の減少・・・665百万円（期末残高 1,673百万円）

*営業活動によるキャッシュ・フロー・・・1,673百万円

税引前当期純利益 964百万円、減価償却費 380百万円、売上債権の増加 49百万円
たな卸資産減少 41百万円、仕入債務増加 69百万円、法人税等支払 160百万円等

*投資活動によるキャッシュ・フロー・・・△1,470百万円

有価証券取得による支出 726百万円、売却・償還による収入 308百万円
有形固定資産取得による支出 684百万円等

*財務活動によるキャッシュ・フロー・・・△316百万円

ファイナンスリース債務の返済による支出 68百万円、配当金支払 223百万円等

（単位：百万円）

	平成24年3月期	平成26年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,049	1,122
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,429	△ 1,470
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 268	△ 268
現金及び現金同等物の増減額	△ 644	△ 665
現金及び現金同等物の期首残高	2,983	2,339
現金及び現金同等物の期末残高	2,339	1,673

展示会出展のご報告

海外

【SEMICON China 2014】



上海の会場にブースを開設 2014/3

国内

【JPCA SHOW2013】



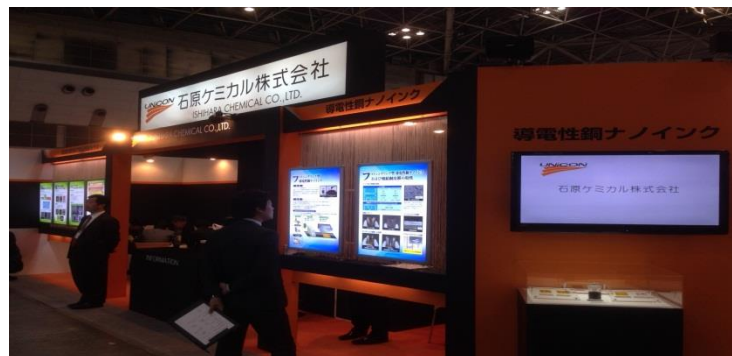
東京ビッグサイト 2013/6

【第15回 半導体パッケージング技術展】



東京ビッグサイト 2014/1

【SURTECH2014 表面技術要素展】



東京ビッグサイト 2014/1